

平成21年度

財団法人秩父地域地場産業  
振興センター事業計画書

財団法人秩父地域地場産業振興センター

理事長 栗原 稔

## 平成21年度財団法人秩父地域地場産業振興センター事業計画

### <基本方針>

米国サブプライムローン問題から端を発した金融不安は、リーマンショックによって一段と加速し、全世界に実体経済の悪化をもたらしている。

輸出に頼ってきた日本経済もその影響を直に受け、あらゆる産業で不振となり、その出口さえ全く見えない状況である。

政府は金融緩和策に加えて緊急不況対策として、公共事業の前倒し、高速道路料金値下げ、定額給付金等々庶民生活に直接影響する事業を打ち出しているが、その効果は疑問視されている。

地方中小企業では、急激な受注減少により、操業短縮、休業、非正規労働者のみでなく正社員の解雇、雇用調整をし、何とか凌いでいるのが現状である。

秩父地域においても自動車関連、精密機械関連企業の多くは休業や操業調整を強いられ何時資金倒産になるか予断を許さない状況である。

しかし、エコエネルギーや工場農業、地産地消の取組み等成長分野への取組みも窺える。

観光面では秩父ミュージックパークに秋の100万人集客を目指して「癒しの森花回廊」がオープンし、新たな観光の目玉が増える。

当センターにおいては、産学官連携事業 **FIND Chichibu** が活発に活動し、企業ニーズにあった分科会が組織され、それぞれが連携しあって機能している。

厳しい時からこそ地域企業が連携、補完し、情報を共有化する必要を感じる。

また、秩父市の支援を頂き、専門・地域コーディネータによる地域内企業御用聞きでは地域内企業を回り情報収集や相談、助言等を行っている。

企業相談は、一般論から企業個別の問題克服へと内容が濃縮されて来ており、また企業ニーズの生の声を聞く場であり、そのニーズに基づくセミナーや講演会の開催、新たな分科会の立上げを行いたい。

加えて、地域活性化事業、需要開拓事業、情報強化事業等を地域企業振興策として取り組んで行きたい。

レストラン業務委託事業は、熊倉高原センターから(株)和銅鉦泉旅館に事業者が変わる。相乗効果が発揮できるよう連携を密に実施していきたい。

なお、団体昼食については、レストランではなく仕出しのこいずみがセンター施設を利用し行う事となった。

直営事業である地場産品展示即売事業及びセンター施設利用促進事業も昨年同様積極的に取り組んで行きたい。

特に、当センター収入の中心である地場産品展示販売事業において、積極的な営業それもセンターのみでなく地域全体の営業活動を行いたい。

## 1. 産学官連携事業（継続）及び再委託事業(経済産業省地域力連携拠点事業)

秩父市より、1/2補助を受け、産学官連携事業を行う。FIND Chichibu 会員（157社）の活動を主体に実施する。

### 1) 近隣大学・国公設試験機関及び支援機関と地元企業の交流<連携交流部会>

本事業を通じて交流のある近隣大学や、試験機関、埼玉県中小企業振興公社やさいたま市産業創造財団などの支援機関と地元企業との産学官交流の促進を図る。

#### ① 講演会（セミナー）・交流会の開催

FIND Chichibu の総会時やその他必要に応じて、地元企業のニーズに即した講演会

（セミナー）を開催し、情報・知識の向上を図るとともに、必要に応じて、地元企業・大学の先生・金融機関・行政・一般の方々等誰もが気軽に参加できるような交流会を開催し、連携の場作りをする。交流を重ねることにより、情報交換の場としてはもとより、有力な取引先や事業パートナーの発掘、新事業の創出、異業種交流などが自然発生的に生まれることが期待される。

#### ② 企業視察等の開催

必要に応じて地域内企業間同士の企業見学や産学官事業先進地、産学官連携を推進する大学等の視察、または先進交流会(さいたまイブニングサロンやミニTAM A西部会など)等他地域との合同交流会を行い、知識の向上・交流を図る。

### 2) FIND Chichibu ポータルサイトの充実と活用<インターネット部会>

平成21年2月末のポータルサイト掲載企業は会員企業157社中120社と75%の企業が掲載された。引き続き掲載企業の増進に努めるとともに、部会活動やコーディネート活動、分科会活動などの事業紹介ページを増設し、ポータルサイトの充実をさらに図る。

当サイトの特徴であるサーチエンジン対策（ヤフーやグーグルでの上位ランキングとなる）の強化としてブログを設置したが、その更新に努める。

パソコン、インターネット知識、活用等について、会員のニーズに合わせた各種セミナーの開催を企画する。

### 3) 分科会活動の推進

テーマ毎の分科会活動を実施する。

①「観光」分科会：今後の当地域の観光・観光産業のあり方等について、観光経済の数値化を含めて、立教大学観光学部、秩父市観光振興課、(財)埼玉りそな産業協力財団等との連携によりワークショップを開催してきたところ、「これからの観光」は、従来の発想とは大きく転換しようとしていることがわかった。

今年度は、引き続き立教大学等と連携し「これからの観光」を学ぶビジネススクールを開催し、関連企業経営者・従業員・行政職員等の知識向上を図りたい。

②「ちかいなか」分科会：近い田舎・田舎暮らしをテーマに地域の人口増をめざし明治大学政治経済学部、秩父市ふるさと創造課、埼玉県地域振興センター、埼玉県農

林振興センター等と連携し、過疎化対策・機能低下集落への対応、遊休農地へのアイデア等の共同会議の開催や間伐材の活用、秩父産木材を使用した家作り、遊休農地・空家などの活用方法等を模索する。

田舎暮らし等を希望するニーズに対して、こちらが提案する実際の空き家や遊休農地等の情報が不足しているため、平成20年度より地域全体のデータバンクづくりを進めている。分科会員も増員され、秩父・小鹿野・皆野長瀬・横瀬と4つの支部を組織化し、各地域の行政とも連携をはかりながら更なるデータ収集を図りたい。

また今年度は「太白芋分科会」とも連携し、ちちぶ太白サツマイモ栽培の繁忙期（種まき・収穫）に都市住民に農業体験を実施してもらい、田舎暮らしの魅力を体験してもらおう。そして、7月にビッグサイトで開催される「移住交流フェア2009」への出展も計画している。

- ③「高校生のインターンシップの調査研究」分科会：地域の就業人口の増加をめざし秩父市工業振興課や地元高校、ハローワーク秩父、秩父地域雇用対策協議会、埼玉県地域振興センター等と連携し、高校生インターンシップの実現化を調査研究する。平成20年度は皆野高校が新たに高校生インターンシップを実施した。企業側と学校側が一堂に会した全体会議の開催により、双方の目的意識の違いを認識し、互いに実のある事業実施の実現をめざす気運が見られる。「高校生インターンシップ受入企業ガイド」は毎年更新し、それを活用した高校生インターンシップの実施が景気動向に左右されることなく継続できるよう一連のシステムの確立をめざす。
- ④「水源地域活性化研究」分科会：水源地域活性化の事例研究をテーマに人的ネットワークの形成をめざし秩父市、国土交通省関東地方整備局二瀬ダム管理事務所、独立行政法人水資源機構荒川ダム総合事業所、埼玉県県土整備部等と連携し研究会や先進地視察等を実施する。今年度は、滝沢ダム工事用の原石山トンネルの活用研究を中心に、更に掘り下げて検討する。
- ⑤「デザイン」分科会：それぞれが持つ優れた技術や製品に、デザインを付加することで、より一層その個性や訴求力を高め、ブランディングにつなげる。そのような「デザイン」について産学連携により研究模索する。平成20年度はグランドデザイン・工業デザイン・商業デザイン等それぞれの専門家・有識者として大学教授等を招へいし、セミナーを開催し知識の向上を図ったが、今年度も継続する。
- ⑥「太白芋」分科会（再委託事業）：農商工連携により、地域ブランドでもある「ちちぶ太白サツマイモ」をお菓子に活用し、地域の特産物の創出を図る。経済産業省地域力連携拠点事業として、埼玉県中小企業振興公社からの再委託事業として、太白芋生産組合、埼玉県地域振興センター、埼玉県農林振興センター等とも連携して推進する。

今年度は、つくり手・売り手・買い手をつなげる活動「いいものプロジェクト」を推進されている白田典子氏を講師に招聘し、パッケージ講習会を開催するとともに、(有)良品工房にてモニター調査を実施したい。また、「ちかいなか分科会」とも

連携してちちぶ太白サツマイモ栽培の繁忙期（種まき・収穫）に都市住民に農業体験を実施し、国産農産物への気づき、農業への理解、食の安全への啓蒙を図る。広報活動の一環として、「農と食フェア」への出展を予定している。

- ⑦「食文化地域活性化」分科会：地域の食材を探求し、産学官連携を活用しながら、秩父地域における地産地消の効果を研究し、地域活性化をめざす。

今年度は、平成20年度に提案された「地域の食材を活用したメニュー」を検証し、試食会等を開いてさらに絞り込み、商品化をめざしたい。

- ⑧「未来エネルギー研究」分科会：低炭素化社会実現をめざした地球温暖化に関する調査研究や太陽光発電システムの普及状況調査、研究等を実施する。

平成20年度は、秩父地域における太陽光発電システム及びオール電化住宅の普及状況調査や先進地の視察を実施したが、今年度は地球温暖化に関する原因及び対策について有識者を招へいした勉強会の開催や、メーカー等による太陽光発電の普及状況の説明会、また地球環境の現状と暮らしの中の新エネルギー、家庭で出来る温暖化対策について考えるシンポジウムの開催を予定している。

#### 4) 研究開発の促進・中核的支援機関との連携

「彩の国地域プラットフォーム」の新事業支援機関として、中核的支援機関である(財)埼玉県中小企業振興公社を中心に埼玉県産業技術総合センター、(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構など各支援機関等と連携を図る。

#### 5) 秩父地域ミニ・ビジネススクールの開催（再委託事業）

平成20年度は(財)埼玉県中小企業振興公社より経済産業省地域力連携拠点事業の再委託事業として、明治大学政治経済学部の森下正教授にカリキュラム編成を依頼し、秩父地域の若手経営者を対象に、経営の基本事項の習得、経営革新等の諸政策周知、事業継承の諸問題や先輩経営者や専門家の講義等を全9回行った。今年度も引き続き、再委託事業へエントリーしており、森下教授プロデュースのもと、新たな参加者を追加募集し、入門編プラス実践編の2部構成とし、平成20年度カリキュラムに入りきらなかった「品質管理」や「イノベーション」「ロジカルシンキング」等を加えた形での実施を予定している。

## 2. 産学官コーディネーター事業

秩父市からの委託事業であり、秩父市が進める雇用対策のための求人开拓員とも連携をとりながら平成19年度より実施している。

産学官連携推進事業を基に、地域企業の繁栄と秩父地域全体の産業振興を推進するため、産業振興の専門コーディネータと、地域企業に精通する地域コーディネータを配置し、いわゆる御用聞き事業や専門家相談・派遣事業・企業情報の収集発信事業等を実施し、企業間及び企業と大学等研究機関との連携を図り、企業の競争力、販売力等の向上に資する。

企業を巡回する中で、企業側による本事業への理解も深まり、企業間のマッチングや、経営課題などが抽出されつつあるが、昨秋のリーマンショック以来の急激な景気後退によ

る受注減少に伴う操業短縮、休業、労働時間減少等経営状況は一段と困窮している。

平成20年度はアンケート調査に基づき、販路開拓やマーケティング、経営革新等ニーズに沿った勉強会（儲かる経営塾）、企業における研修会、緊急不況相談会等を開催したが、今年度も引き続き、企業ニーズに沿ったより具体的な緊急雇用対策助成金や抜本的なラインや無駄の見直しなど直接的な相談等に迅速に対応した支援活動を実施する。

### 3. 秩父地域活性化推進事業

「地域活性化研究会・物産部会」では、繊維部会が休会となって久しく、今後新たな部会が増設される予定もないため、名称を「秩父地域活性化研究会」と改め、秩父地域の観光活性化のためのプロジェクトの立案とそのプロジェクト実行のためのシステム構築を目指し、身近なテーマを切り口に、調査・研究を実施し、地域内外へ発信することを模索する。

平成20年度には、『「マニアックな秩父」体験記と秩父の色100選～地域カラーの選出』と題した、足かけ4年かけて会員自らが体験した地域の観光ガイドを作成し、行政長等へ提案した。観光分科会における立教大学の教授陣による提案の中でも、公共的な立場ではなく、あくまでも民間研究会としての立場で編集されたものは個々のニーズが細分化しているこれからの「観光」に適しているとされており、本事業の方向性に確信が得られた。

そこで、今年度は「食」をテーマに「秩父ミシュランガイド」（仮称）の作成を研究するとともに、引き続き「秩父の色100選」の活用をPRする。また、『「マニアックな秩父」体験記と秩父の色100選～地域カラーの選出～』はPDFを作成し、地場産センターのホームページ上から自由に資料として活用できるようにしたい。

### 4. 需要開拓事業（継続）

#### 1) 物産展・市民まつり等イベント催事への参加

全国の地場産センターで開催される全国地場産フェア及び埼玉県、秩父市、広域市町村圏組合等から出展依頼がある市民まつり等の催事に予算の範囲内において積極的に出展し、秩父地域及び地域の物産を広く紹介・販売したい。

（下の表は予定されているもの）

期	日	会 場
平成21年	春	秩父 羊山公園 芝桜の丘
〃	6月	横浜 開港150周年イベント
〃	秋	秩父 自転車競走大会
〃	〃	甲府 地場産業まつり
〃	〃	秩父 龍勢まつり
〃	〃	東京 市民まつり（東村山）
〃	〃	東京 秋の秩父路フェア
〃	〃	秩父 大滝紅葉まつり
〃	〃	桐生 じばさんフェア
平成22年	2月	甲府 地場産業まつり

〃	3月	東京 豊島区ファン集い
---	----	-------------

## 2) イベント等の開催

### ①「芝桜まつり」イベントの開催

芝桜まつり実行委員会の活動に参加し、芝桜の丘より市内誘導への一環として「秩父銘仙」の展示・即売会を開催する。

### ②「地場産まつり」等の開催

GWや夏休み期間内等には家族参加型のイベントを開催すると共に、全国の地場産センターとの特産品等の交流紹介販売も行いたい。

## 3) ネット及び電話注文販売の強化

### ①DMによる特別販売の実施

コレクト便のご購入者や秩父ファン倶楽部会員宛てに特別割引販売のDMを出し、店舗外販売を強化する。

### ②商品カタログの作成・配布

商品カタログを作成し、広く配布することにより、電話注文販売を強化する。

### ③インターネットショップの充実

HP「秩父ふる里便」を充実させ、ネット販売の強化を図る。

## 4) メディアを利用した地域PR

テレビ埼玉の情報紹介番組「ごごびん」の番組編成スポンサーとなり、当該番組を中心に、地域及び物産等の情報を積極的に提供し、優先的に紹介放送するように働き掛ける。

また、地元の秩父ケーブルテレビも活用したい。

## 5. 情報対策事業（継続）

### 1) 行政、業界及びその他支援機関等との連携強化

関東経済産業局、埼玉県、秩父市、(財)埼玉県中小企業振興公社、埼玉県産業技術総合センターなど関係行政、支援機関及び地域企業等と交流・連携を図る。

また、公益法人制度改革について、全国各地場産センターと連携を取り対応する。

### 2) センター内業務OA化の推進

事務の簡素化をめざしセンター内業務のOA化を推進する。

### 3) ホームページを活用した情報発信

当センターホームページ管理、修正は清水ネットに外部委託し、随時更新できる体制が出来た。

新たにオープンするレストラン、団体昼食、新製品紹介などタイムリーな情報を発信して行く。

## 6. 直営事業（継続）

### 1) 地場産品の展示即売事業

秩父地域の地場産品を1階物産館において展示紹介、販売を行う。

芝桜の開花時期や秋の紅葉など自然を求めて来秩される観光客をいかに街中へ誘導するのかが課題と考えられるが、他の観光関係団体との連携を深め、新たなしかけを模索しながら、より良い接客を心がけたい。

#### ①展示紹介、販売の促進

国産、秩父（埼玉県）産の商品にこだわった商品構成を行う。

また、季節感ある展示や、お客様側に立ったPOP、説明は勿論のこと、地域の話題や季節情報の提供なども積極的にやりたい。

また、サービスの向上を図るため、職員、販売員の教育・研修に努めたい。

#### ②お中元・お歳暮・お年賀等のギフト販売を強化する。

ギフトシーズンの宅配便送料割引サービス「ふるさと便フェア」は好評を得ており、期日の問合せや毎年待っていただいているお客様も多く更に強化したい。

#### ③観光エージェントとの連携、観光客誘致

団体昼食契約業者の仕出しこいずみと協議し、春夏秋冬こだわりの昼食メニューを作成、団体昼食及び買物の立寄り営業を行なう。

営業を行うにあたっては、センター単独ではなく、秩父まつり会館、ミューズパーク、各観光施設、ホテル・旅館等と協力して、キャラバンの実施したい。

### 2) 施設利用促進事業

センター施設を地域内の企業、団体の会議、研修会、展示会等に貸出す。

新たな利用者の開拓や利用者へのサービスを模索し、利用率の向上に努めたい。

HP改修に伴いネットから問合せ、仮予約、申込が出来るようになった。

給湯室水周りの老朽化の改修（製氷機も含め）を行い利便性の向上を図る。

### 3) レストラン経営委託事業

レストラン業務については、今まで秩父鉄道グループの（株）熊倉高原センターに業務委託していたが、平成20年12月末日を持って撤退した。

新たな事業者を公募し、（株）和銅鉱泉旅館がレストラン業務を行う事となった。

地元食材を使った地場を意識したメニューにし、観光客から地域住民まで広く楽しめるレストランを考えている。著名な料理家枝元なほみさんが総合プロデューサーを行い、厨房機器、店舗改装をし5月中下旬頃オープンする予定。

尚、団体昼食については仕出しこいずみがセンター施設を利用し行う。

## 7. 管理運営事業（継続）

### 1) 理事会・評議員会の開催

当センターの適正・円滑な運営を図るため、理事会及び評議員会を開催する。

開催予定期日	主な審議内容
平成21年5月	平成20年度事業報告、決算報告
平成22年3月	平成22年度事業計画（案）、予算（案） 任期満了による評議員の改選他

その他、必要に応じ開催する。

2) 各種会議等への出席

当センターの円滑な運営管理を図るため、及び職員の資質向上をめざし各種会議、研修会等へ積極的に参加する。

会 議 の 名 称	開催予定期日	開催予定場所
全国地場産センター協議会総会	平成21年7月	群馬・桐生センター
同 基本問題研究会	数 回	東京・中総研他
関東管内地場産センター協議会	平成21年 春	栃木・足利センター
同 事務担当者会議	平成21年 秋	山梨・甲府センター
中小企業振興施策勉強会	未 定	未 定
中小企業活性化シンポジウム	未 定	未 定
中小企業活性化支援会議	未 定	未 定
中小企業活性化担当者研修会	未 定	未 定
全国地場産センター役職員研修会	未 定	未 定

その他防火管理、食品衛生管理等必要に応じ、また、地域内外の講演会、講習会、研修会等へ参加する。

3) 施設管理等

- ・ 正面ドアの改修
- ・ 給湯室水周りの改修
- ・ 空調ロールフィルターの交換 など